



東地中海地域ニュース

トルコ：AKP 解党裁判判決に関するトルコ指導者のコメント (7月30日付現地各紙)

公正発展党（AKP）が政教分離の原則に反しているとし、検察当局が解党を求めていた裁判で、憲法裁判所が訴えを退ける判決を下した。判決に関し、エルドアン首相、ギュル大統領、トプタン国会議長によるコメントが報道されている。概要以下の通り。

1. エルドアン首相 公式メッセージ（HPより）

新たなスタートを切るにあたり、政府と国民が一丸となる限り、超えられない障壁はない。トルコ共和国は、民主主義、政教分離及び社会的な法治国家として、アタチュルクの示した近代化の目標に向けてまっすぐに突き進むだろう。

2. ギュル大統領

トルコは、全ての組織・機関において民主主義が実行されている法治国家である。このことは、過去数ヶ月の間に起こった法律的な議論の過程を見てもいえることである。今後は、政府及び国民は、国政政治・経済の発展をよく見据えて、トルコの優先的課題の達成に集中すべきである。トルコの優先的課題としてまず挙げるべきことは、テロとの闘い、経済及び政治改革の継続、EU加盟交渉の目標達成、そして外交活動における平和的努力の数々が実を結ぶことである。

3. トプタン国会議長

今回の判決は、今後のAKP政権にとって新たな突進の機会となるだろう。これを機に、トルコ社会の自由化、対話の重視、相互尊重という価値観を重視しつつトルコの諸問題解決に向けた努力が必要である。また、EU加盟交渉も軌道に乗せる必要がある。世界的な経済危機と解党裁判により打撃を受けたトルコ経済を再度活性化させなければならない。